

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202486		
法人名	株式会社 日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホームアダージョ		
所在地	静岡県駿河区中田4丁目6-1		
自己評価作成日	平成 28年 11月 8日	評価結果市町村受理日	平成29年 2月 15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・S型ディサービス、町内の夏祭りに出店など地域との交流を図り、顔なじみの関係を作っています</li> <li>・ご利用者一人一人との時間を大切にできるように努めながらも、ご利用者との交流も持てる様に、年2回ユニット合同で「家族会」の準備等を行っています</li> <li>・職員同士で勉強会を開き、お互いに向上に努めています</li> <li>・職員が明るくご利用者に元気で接することです</li> </ul>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2274202486-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2274202486-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>施設に隣接した協力医は「在宅療養支援診療所」であり、24時間体制で医療面や健康管理に携わっており利用者の安心に繋がっている。食事の準備には利用者の得意な分野で役割を持って参加し居場所のある生き生きとした日常を送っている。施設の方針が職員の学びに協力的で向上心があり、職場の人間関係も良く勤務年数の長い職員が多く利用者との馴染みの関係が出来ている。地元のお祭りにはフランクフルト・おでんを出店し、利用者全員が外に出て各担当で参加し地域の一人として顔なじみになり、地域に馴染んだ生活を送っている。嗜好品の買い物や図書館など本人の行きたい場所への支援があり、利用者の暮らしの方の希望が叶えられるように努めていて穏やかな雰囲気が見られる。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成 28年 11月 29日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昨年開所から10年経ち、職員みんなで理念の見直しをし、今までの理念と変わらずにを再確認。ただ、解りやすく言葉を加えた。地域密着型サービスでもあり町内の行事への参加に努めている	開所10年を機に理念の見直しを職員全員で検討した結果、理念はそのまま下記に意味を解かり易く付け加えている。言葉を優しくすることより、理念の落とし込み、再確認が出来、笑顔のある生活支援が実施されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	S型デイサービスへの参加、町内の祭りへの出店をしている。ホーム近くのお店に買い物に行くなど顔なじみになってきている	地域ミニデイサービス(S型)に3~4人が午前中のみ参加している。地域の夏祭りでは駐車場にテントを張り、おでん・フランクフルトの販売で利用者も店番やチケットの手渡し・子供達とジャンケンゲームに参加し家族協力もあり全員が外に出た。地域に顔も覚えてもらえて好評だった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、又はS型ディなどで機会がある時は、研修などで話が合ったことを報告伝えている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に参加される、町内会長・民生委員の方に話をしている	各関係のある所へは年初めに年間スケジュールを送っている。家族会議に合わせて年2回、他の月には、集まりやすい日曜日に開催している。民生委員、町内会長に勧められてS型や、祭りに参加するようになった経緯がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には年1回だが参加してもらっている また、必要に応じ連絡をしている	年1回介護保険課の推進会議出席を兼ねた訪問がある。市民生活課へは生保受給者(6名)の相談半年毎にケアプランを届けている。年間予定を地域包括に届けている。介護相談員の定期的な訪問と推進会議にも出席する事もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関ホールにポスターを張り意識している 夏の日中は、玄関は網戸にしている 安全上、必要と思われる時は職員で話し合い、ご家族に相談しながら期間を決め行う事もある	日中の玄関施錠は行っていない。外出願望の思いをくみ取れるように常に声かけし症状に合わせて話しかけや、散歩で対応できるように職員には身体拘束をしないケアを実践している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員もストレスが溜まらない様、夜間は各ユニットで状況報告するようにしている ヒヤリハットで、気付きをあげ意識している 馴れ合いの言葉になる事もあり、会議などで振り返りをを行っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援事業を活用した方がいいと思われる方は、家族、市の担当者と話をし活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、改定等の際に説明をし、疑問点等を尋ねる様にし、理解・納得に努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、年2回の家族会で話す機会を作っている	面会時には利用者の日常の様子を報告している。年2回の家族会では一人ずつの意見を聞き、その後カンファレンスで改善策を家族に報告している。法人の用意した意見箱や葉書を設置しているが利用はない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議、ホーム会議で意見を聞く機会を作っている	車椅子の不備などのハード面や、レクリエーション等の提案が出されている。又、カンファレンスでは言葉かけやケアに関する悩みなど意見が出され、職員同志で気付いた事や、申し送りノートに記入した意見も話し合っている。災害対策のプチ訓練の提案も出され実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況の報告を毎月行っている ホーム内外の研修報告をしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社全体での研修はなくなったが、各ホームで研修、勉強会の時間を組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域事例ネットワークなどへの参加に努めている		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、ご本人と面談を行いご本人の言葉を聞くようにしている 可能な限り、入居前にホームを見学してもらっている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には、ご本人、ご家族と面談を行い意見を聞くようにしている 可能な限り、入居前にホームを見学してもらっている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	声を掛け、午前・午後等入浴時間はご本人の希望に合うように努めている 入るまでは面倒がる方も、入浴後は気持ちよくなるように努めている 入浴確認表で何日空いているかなどチェックしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に献立を考えたり、食材の買い物に出かけている 隣家への回覧板を届けてもらっているなど、一緒にかかわってもらっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加・協力、受診・買い物の付き添い、など協力して頂いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、兄弟の面会 実家への帰省など継続出来る様に努めている	馴染みの理美容院などへは職員が支援している。又、兄妹会でドライブや、年末に実家に日帰り帰省をしている。入居後も近所の店で買い物やS型デイサービスの参加を継続している。訪問者名簿に記録されている方へは、ホームの行事案内を送り、訪問の継続に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	状況をみて、ご利用者同士の会話の橋渡しを行ったり、ご利用者同士で話ができる様にしている ご利用者が他者の手助けをしている時など、間に入る支援をしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の話を聞き、情報を職員が共有しカンファレンスを行っている。内容によってはご家族に相談し検討している	会話の中で行きたい所や食事など希望を聞いたら、必要に応じて家族に伝え相談している。嗜好品等は家族了解で金銭管理も受けしており、職員が買い物に付き添っている。外出の希望も職員が受けている。近所の美容室の協力で一人で居れる方の美容室でのカット希望が実現している	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報やご本人・ご家族の話から把握するように努めている ご本人と昔話をしながら把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送り、バイタルチェック、記録などで情報を共有し、把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを行いプランに対してもモニタリングしている	月1回のユニット会議で状況をカンファレンスし、ケアマネジャーが家族にモニタリングを報告している。現在は状況が安定している為、介護計画の見直しを、短期3ヶ月を6か月に長期6か月を1年にサイクルを延長している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録し、申し送りなどで共有している。 プランのモニタリングを行う際、記録を見ながら振り返り見直している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	主治医・訪問看護師に相談し、ご利用者へのより良いサービスを心掛けている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	S型ディサービスへの参加。 近所のお店への買い物、図書館の利用などしている 近所のコンビニへ毎週出かけ、嗜好品を購入している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族と話し、かかりつけ医を決めている。また、受診時は職員が付き添い先生との関係を務めている。ご家族が付き添い時はお手紙で情報提供をするようにしている	事業所に隣設する協力医「在宅療養支援診療所」は24時間体制の為、ほとんどの利用者がかかりつけ医から協力医に移行している。精神科や眼科等の他科受診には家族や職員が付き添い、家族、医療との情報提供をしている。昨年より付き添い支援が有料となった。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時に様子を伝え相談、アドバイスももらっている。 週1回の訪問看護師とは申し送り、記録などで情報提供し、医療面では相談、アドバイスをもらい支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院後、定期定期に面会をし病院関係者と情報交換している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者の状態を観ながら、ご家族に話している	医師の判断と家族の希望により話し合われ看取りと判断された段階で同意書もらっている。協力医は24時間対応であり、職員の研修も行き、職員の看取りケアも不安が軽減されている。終末期のマニュアルも用意(壁に)している。家族も泊まり込みで看取ることもある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事務所内にマニュアルを貼り、職員がいつでも見れるようになっている 事故・感染委員が主になり勉強会を開く様にしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を行っている 居間には「火災発生時」の対応を貼り常に身に入るようにしている 年1回の町内の訓練に参加し、協力を呼びかける様に努めている	半年に1回の訓練を行い消防士からの指導実施を受けている。独自に通報や、夜間、火災時を想定しプチ訓練も行っている。町内の訓練にも参加している。職員が誘導している間町内の方に利用者の顔を覚えて頂く為に見守りをお願いしている。水や食料等玄関に備蓄している。BCPの委員会もある	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの得意とする事を大切に、表情を見ながら声をかけている お部屋で過ごす時間も大切にしている	ぬり絵が得意な男性の作品を壁に貼っている。 トイレ誘導等では、小さな声やタイミングを見て声を掛けてプライバシーの確保、周囲への配慮をしている。他の方の話が出る時もイニシャルを使い個人のプライバシーを守っている。耳元でゆっくり伝えるように注意している	12月からホーム長と1階、2階に各主任を配置し、この3本柱でサービスの質の向上を目指し、声掛け、言葉使いをしっかり学びより良い介護を提供をしたいとホーム長の希望があり、ぜひ実践して人格を尊重したより良いサービスの向上に期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散歩・買い物、又は家事などご本人の希望を確認しながら支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常にご利用者の安全第一を考え、ご本人のペースに合わせる様に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品の購入、床屋への外出など支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者と一緒に献立を考えたり、得意料理を教わったりしている 食材の買い物にも一緒に出かけている 食器拭きは、ご利用者が行っている	職員と一緒に茹でる、切る、味付けから配膳まで、糠漬け作り等得意な出番がある。食後は男性の食器洗い、座ったままの茶わん拭き等それぞれ出来る方の分担振り分けに職員の配慮があり皆で食事を楽しんでいる。家族会では外や居室で食事をする等楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立の記録を残し、バランスを考えている 食事量・水分量が確保できるように記録に残し、不足がちな時は提供するようにしている 午後は、お茶を飲まなかった人にはその方の週刊で白湯を提供している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けをし必要な方には支援をしている その方に合ったブラシ、歯磨き剤を使用している 状態により歯科受診をしている 受診が大変な方は往診に来ていただいている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録し、排泄パターンの把握、習慣に努めてトイレでの排泄が出来る様支援している 時間での声掛け支援を行っている	夜間パットを使用されている利用者も、日中は布パンツに尿取りパットのみでトイレでの排泄を心がけ利用者の排泄パターンにそって誘導している。退院直後の方にも状態に合わせてオムツやパットを変えてトイレ排泄への支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量・水分量を記録し、乳製品の提供、運動時間の提供をしている 状態により主治医に相談し、便秘治療薬を内服している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	声を掛け、午前・午後等入浴時間はご本人の希望に合うように努めている 入るまでは面倒がる方も、入浴後は気持ちよくなるように努めている 入浴確認表で何日空いているかなどチェックしている	午前、午後の希望を聞き朝礼でその日の入浴者を決めている。体調を見ながらチェック表を確認し入浴している。入浴拒否の利用者には、間をおいて「お風呂」の言葉を避け何となく良い気分で誘い、湯につかれれば気持ちよくなるように上手く誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温・照明・音など環境作りに努めている ベッドの向き等、ご本人が休まる位置を考えたり、布団の重さ、厚さ等も希望に沿うように努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的・副作用など理解し、変化がある時は主治医、薬剤師へ相談し、調整している 特に薬が変わった時は記録に残し、状態の変化の把握に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者が何に興味があるか把握し、共有しながら、買い物・図書館など支援している 気の合う職員との外出など		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	レクリエーションの日にドライブに出かけたり、ご家族の協力のもとデパートへに買い物、実家への外出など支援している 普段もスーパーへの買い物などに出ている	近くの大型店に希望があると、利用者の状況に合わせて外出の支援をしている。レクリエーションではドライブや花見に出かける。読書の好きな利用者は、近くの図書館を頻繁に活用している。食材の調達に近くの店に買い物に出かけたり、嗜好品の買い物、美容院にも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金については、ご家族と相談し持っている方もいる 買い物時に、出来る方はご本人にお財布を渡し支払いはご本人にして頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたい時には、提供している 自室に電話がある方もおり、直接ご家族と連絡とれている 手紙が来た時は、ご本人に渡し返事を促している 年賀状なども声を掛けています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	隣家から頂いた生花、写真・ご利用者の作品を飾っている 七夕・クリスマス等飾りで季節感をだし、その時代の音楽を流したりしている	日当たりの良い共有スペースは明るく、季節の花や利用者の作品などが飾られている。換気にも配慮し快適な室温が保たれている。懐かしい唱歌が流れていてソファでくつろいだり、対面式キッチンでは職員との会話も弾んでいる。廊下の明かりは夜間落ち着いて眠れるように消灯している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席を移動し、新聞・本を読んだり、気の合う人同士で食器拭き、洗濯畳を話しながら行っている 自席からソファへ移動し休む方もいる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅で使っていた物をなるべく持ってきて頂いている ご家族とお茶をしたり、食事が出来る様に椅子やテーブルなど不足な物は提供している	なじみの調度品や仏壇を置き、家族の写真も飾ったりして穏やかな日常を送っている。テレビも自由に設置でき楽しんでいる。布団、枕は慣れたものを持参している。冷蔵庫は使っていないが購入間もない為手放したくないと部屋に持って来てあったり、使用しない電話機も置いてある方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室、トイレなど表示しわかるようにしている		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2274202486		
法人名	株式会社 日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホームアダージョ		
所在地	静岡県駿河区中田4丁目6-1		
自己評価作成日	平成 28年 11月 8日	評価結果市町村受理日	平成 29年 2月 15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [http://www.kai gokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2015\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=2274202486-00&PrefCd=22&VersionCd=022](http://www.kai gokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2274202486-00&PrefCd=22&VersionCd=022)

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成 28年 11月 29日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

・S型ディサービス、町内の夏祭りに出店など地域との交流を図り、顔なじみの関係を作っています  
 ・ご利用者一人一人との時間を大切にできるように努めながらも、ご利用者との交流も持てる様に、年2回ユニット合同で「家族会」の準備等を行っています  
 ・職員同士で勉強会を開き、お互いに向上に努めています  
 ・職員が明るくご利用者に元気で接することです

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昨年開所から10年経ち、職員みんなで理念の見直しをし、今までの理念と変わらずにを再確認。ただ、解りやすく言葉を加えた。地域密着型サービスでもあり町内の行事への参加に努めている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	S型デイサービスへの参加、町内の祭りへの出店をしている。ホーム近くのお店に買い物に行くなど顔なじみになってきている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、又はS型ディなどで機会がある時は、研修などで話が合ったことを報告伝えている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に参加される、町内会長・民生委員の方に話をしている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には年1回だが参加してもらっている また、必要に応じ連絡をしている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関ホールにポスターを張り意識している 夏の日中は、玄関は網戸にしている 安全上、必要と思われる時は職員で話し合い、ご家族に相談しながら期間を決め行う事もある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員もストレスが溜まらない様、夜間は各ユニットで状況報告するようにしている ヒヤリハットで、気付きをあげ意識している 馴れ合いの言葉になる事もあり、会議などで振り返りをやっている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援事業を活用した方がいいと思われる方は、家族、市の担当者と話をし活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、改定等の際に説明をし、疑問点等を尋ねる様にし、理解・納得に努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、年2回の家族会で話す機会を作っている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議、ホーム会議で意見を聞く機会を作っている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況の報告を毎月行っている ホーム内外の研修報告をしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社全体での研修はなくなったが、各ホームで研修、勉強会の時間を組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域事例ネットワークなどへの参加に努めている		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、ご本人と面談を行いご本人の言葉を聞くようにしている 可能な限り、入居前にホームを見学してもらっている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には、ご本人、ご家族と面談を行い意見を聞くようにしている 可能な限り、入居前にホームを見学してもらっている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	声を掛け、午前・午後等入浴時間はご本人の希望に合うように努めている 入るまでは面倒がる方も、入浴後は気持ちよくなるように努めている 入浴確認表で何日空いているかなどチェックしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に献立を考えたり、食材の買い物に出かけている 隣家への回覧板を届けてもらっているなど、一緒にかかわってもらっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加・協力、受診・買い物の付き添い、など協力して頂いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、兄弟の面会 実家への帰省など継続出来る様に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	状況をみて、ご利用者同士の会話の橋渡しを行ったり、ご利用者同士で話ができる様にしている ご利用者が他者の手助けをしている時など、間に入る支援をしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の話聞き、情報を職員が共有しカンファレンスを行っている。内容によってはご家族に相談し検討している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報やご本人・ご家族の話から把握するように努めている ご本人と昔話をしながら把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送り、バイタルチェック、記録などで情報を共有し、把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを行いプランに対してもモニタリングしている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録し、申し送りなどで共有している。 プランのモニタリングを行う際、記録を見ながら振り返り見直している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	主治医・訪問看護師に相談し、ご利用者へのより良いサービスを心掛けている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	S型ディサービスへの参加。 近所のお店への買い物、図書館の利用などしている 近所のコンビニへ毎週出かけ、嗜好品を購入している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族と話し、かかりつけ医を決めている。また、受診時は職員が付き添い先生との関係を務めている。ご家族が付き添い時はお手紙で情報提供をするようにしている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時に様子を伝え相談、アドバイスももらっている。 週1回の訪問看護師とは申し送り、記録などで情報提供し、医療面では相談、アドバイスをもらい支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院後、定期定期に面会をし病院関係者と情報交換している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者の状態を観ながら、ご家族に話をしている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事務所内にマニュアルを貼り、職員がいつでも見れるようになっている 事故・感染委員が主になり勉強会を開く様にしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を行っている 居間には「火災発生時」の対応を貼り常に身に入るようにしている 年1回の町内の訓練に参加し、協力を呼びかける様に努めている		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの得意とする事を大切に、表情を見ながら声をかけている お部屋で過ごす時間も大切にしている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散歩・買い物、又は家事などご本人の希望を確認しながら支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常にご利用者の安全第一を考え、ご本人のペースに合わせる様に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品の購入、床屋への外出など支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者と一緒に献立を考えたり、得意料理を教わったりしている 食材の買い物にも一緒に出かけている 食器拭きは、ご利用者が行っている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立の記録を残し、バランスを考えている 食事量・水分量が確保できるように記録に残し、不足がちな時は提供するようにしている 午後は、お茶を飲まなかった人にはその方の週刊で白湯を提供している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けをし必要な方には支援をしている その方に合ったブラシ、歯磨き剤を使用している 状態により歯科受診をしている 受診が大変な方は往診に来ていただいでい		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録し、排泄パターンの把握、習慣に努めてトイレでの排泄が出来る様支援している 時間での声掛け支援を行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量・水分量を記録し、乳製品の提供、運動時間の提供をしている 状態により主治医に相談し、便秘治療薬を内服している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	声を掛け、午前・午後等入浴時間はご本人の希望に合うように努めている 入るまでは面倒がる方も、入浴後は気持ちよくなるように努めている 入浴確認表で何日空いているかなどチェックしている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温・照明・音など環境作りに努めている ベットの向き等、ご本人が休まる位置を考えたり、布団の重さ、厚さ等も希望に沿うように努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的・副作用など理解し、変化がある時は主治医、薬剤師へ相談し、調整している 特に薬が変わった時は記録に残し、状態の変化の把握に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者が何に興味があるか把握し、共有しながら、買い物・図書館など支援している 気の合う職員との外出など		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	レクリエーションの日にドライブに出かけたり、ご家族の協力のもとデパートへに買い物、実家への外出など支援している 普段もスーパーへの買い物などに出ている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金については、ご家族と相談し持っている方もいる 買い物時に、出来る方はご本人にお財布を渡し支払いはご本人にして頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたい時には、提供している 自室に電話がある方もおり、直接ご家族と連絡とれている 手紙が来た時は、ご本人に渡し返事を促している 年賀状なども声を掛けています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	隣家から頂いた生花、写真・ご利用者の作品を飾っている 七夕・クリスマス等飾りで季節感をだし、その時代の音楽を流したりしている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席を移動し、新聞・本を読んだり、気の合う人同士で食器拭き、洗濯畳を話しながら行っている 自席からソファへ移動し休む方もいる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅で使っていた物をなるべく持ってきて頂いている ご家族とお茶をしたり、食事が出来る様に椅子やテーブルなど不足な物は提供している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室、トイレなど表示しわかるようにしている		